

令和4年北海道胆振東部地震厚真町追悼式 式辞

本日ここに、ご遺族の皆様並びにご来賓の皆様のご臨席のもと、令和4年北海道胆振東部地震厚真町追悼式を挙げるにあたり、町民を代表して、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

北海道で初めて震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震から、4年が過ぎようとしていますが、最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた方々のお気持ちを思うと、今なお哀惜の念に堪えません。改めてこの震災で犠牲となられた全ての御霊に対して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

祭壇を仰ぎ見ながら、これまでの4年間を静かに顧みれば、臉に浮かぶのは、時を経てもなお変わらぬ震災当時の信じがたい光景です。犠牲者の捜索に一縷の望みを託すご家族やご友人の祈り、現状を把握しきれずに避難されてきた町民の不安げな表情を決して忘れることはありません。住民の安否確認に奔走する職員や避難所での受け入れに必死の職員、続々と駆け付ける関係機関など。そんな喧噪の中であって、自分のことより知人や友人を気に掛ける町民や各級職員の姿に、必ずこの未曾有の困難を乗り越えていこうと、心の中に不確かではあっても芽生えた、生きる者としての使命感やともに歩むものとしての信頼は、その後の復旧事業を加速させてきました。

災害復旧として主なものでも国直轄では砂防事業、かんがい排水事業、北海道施行による急傾斜地崩壊対策、被災農地復旧、治山事業、仮設住宅の建設、厚真町施行分では被災宅地復旧、災害廃棄物処理、浄水場などの公共施設復旧、災害公営住宅などの建設や農業者・事業者の経営再建に関する事業、その他に道路や河川の災害復旧など所管する関係機関が協力しながら取り組んできた事業は膨大なものとなりましたが、何れも、町民の皆さんのご理解とご協力があったればこそその達成状況であると改めて感謝申し上げます。社会・産業インフラの復旧作業は令和5年度が一つの区切りとなりますが、森林再生はこれまでの取り組みを本年度からさらに加速させ、令和8年度までを重点取り組み期間としています。

折に触れ、私たちは決して立ち止まらないと決意を新たにしていまいりましたが、災害復旧が進んでいる今、本町は、復旧から復興への取り組みにも挑戦を始めています。いつ起きてもおかしくない北海道太平洋沖海溝型大地震に備えての庁舎周辺整備や防災減災対策、自然災害被災地ならではのエネルギー地産地消や森林再生を種火とした省エネルギー・創エネルギー・吸収源対策を官・民・学で総合的に取り組んでいくゼロ・カーボン推進、一次産業を中心にIoT、ICTの推進とグリーン×グリーン×デジタル政策を構想しています。すでに公共分野では実装し始めていますが、民生展開や産業界での働き方改革や生活の質を向上させる取り組みを加速してまいります。加えて本町における人材育成やチャレンジャーの活躍ぶりが、町の挑戦と相まって、全道的に注目されつつあります。震災時に語られていた「悲しいまちでは終わらない」から現在では「決して諦めないまち」へと挑戦をキーワードに深化を遂げています。

未曾有の困難にあっても、私たちは決して復旧・復興への想いを閉ざすことなく、町民一

人ひとりの災害に立ち向かう姿勢とご理解ご協力により、ここまで復旧を進めることができましたが、一方で、被災された町民の皆さんが抱える不安、悩みはこの短期間では、決して癒されるものではありません。それぞれの明日に対する不安をできるだけ軽減し、個々の課題解決のため関係機関や町民のご協力をいただきながら、被災者に寄り添い誰一人として取り残すことのない復旧・復興を目指して、たゆまぬ努力を続けてまいります。

依然として新型コロナウイルスは世界中で猛威を振るっており、被災地の復旧・復興の推進にも影を落としています。国際情勢は安全保障への危機感と燃油や資材の高騰など、私たちの生活や経済活動に新たな脅威をもたらしています。また、先ほど触れさせていただいた、日本海溝・千島海溝沿いを震源とする巨大地震による被害想定は北海道民に大きな衝撃を与えました。食料や国家紛争における安全保障に加えて、いつ発生するかわからない災害に備えておかなければなりません、

震災記憶の風化は、私たちが最も恐れているものであり、これからも多くの教訓と復旧・復興の記憶や経験を町内外で共有し、命を守る防災・減災対策に全力で取り組んでいかなければなりません。これから先も新たな困難に直面すると思いますが、「誰一人として取り残さない」を基本理念とする胆振東部地震からの復旧・復興を最優先としながらも、一方で、先行き不透明感が増している今だからこそ、その先にある創生への道と持続的発展に向け、誠実に歩みを進めてまいりたいと考えています。

本来であれば、ご遺族並びにご来賓、ご尽力者の方々の多くのご臨席のもと追悼式を挙行したいと考えておりましたが、全国的にも新型コロナウイルス感染症が急増し、第7波の収束が見通せない状況にありますので、ご来賓のご案内を限定し、自由献花方式を併用しての開催とさせていただきました。関係各位には誠に申し訳ありませんが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

これまでの間、災害復旧事業・捜索活動にご尽力を賜りました関係機関、ボランティア活動に駆けつけていただいた皆様や物心両面にわたりご支援を賜りました大勢の皆様に改めて心より感謝申し上げます。

結びに、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともにご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念し、式辞といたします。

令和4年9月3日

厚真町長 宮坂尚市朗